

ことばをめぐる包摂と排除

[研究ノート]

「社会的排除」を免れるために必要な能力とはなにか

4つのタイプの生徒と教員たちの奮闘の記録から考える

すぎむら なおみ

1. イロハ高校の生徒と教員たち

1.1. 「ライアーゲーム」のはじまり

1学年の教員たちが雑談しているところに、養護教諭の吉永が入ってきた。

「3組の美咲が部活をやめたいと泣いてきました」

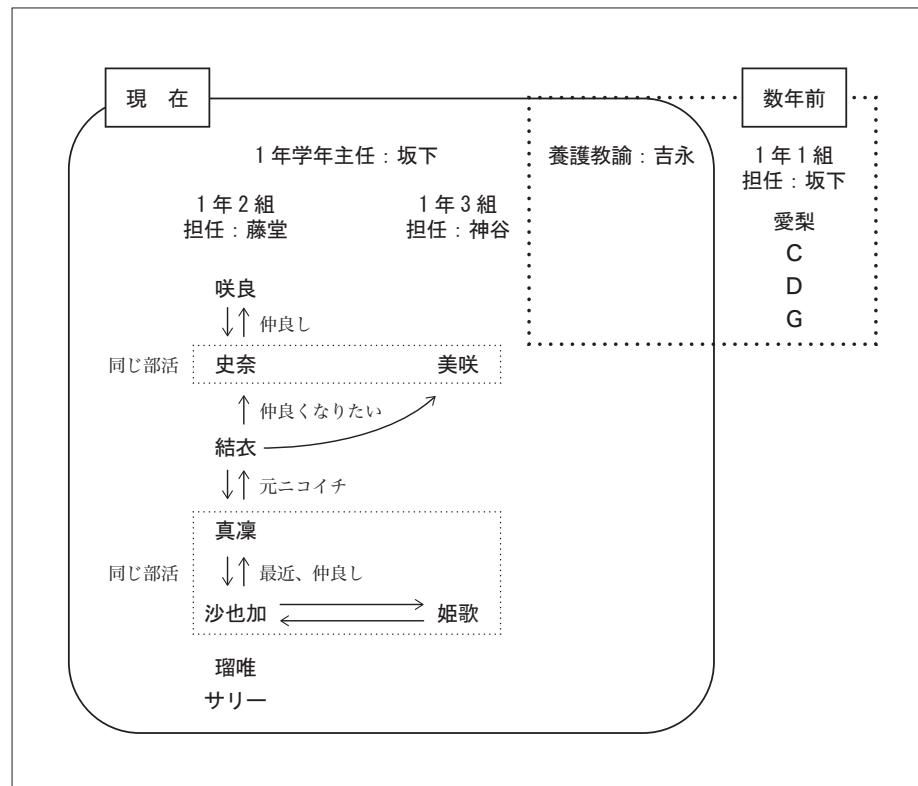
「えっ？ 美咲は2組の史奈と仲良くなつて部活が楽しいって言ってたけど……」と3組の担任の神谷が驚く（図1）。

「それが、2組の結衣に『史奈ちゃんいつも笑顔だけど、裏で美咲ちゃんの悪口言ってるから気をつけて』って言われて、どう接していいかわからなくなつたそうです。そうしたら、史奈に無視されるようになったって。部活でほかに話す子もいないし、やめたいと」

「結衣、真凜から史奈に乗り換えようとしてましたよ。なのに、なんで史奈の悪口？」と2組の藤堂がため息をつく。

「その真凜も、沙也加たちによっていいたら今度は3組の姫歌と部活で3人グループになって……。最近、真凜と姫歌が交互に無視されて保健室に泣きにきっているのに、当の沙也加は3人の人間関係がつらいってカウンセラーさんに相談しているみたいです」

図1 人間関係相関図



学年団の教員たちが、ため息をつく。

「うわ～。今年もはじまったなー、ライアーゲーム」

「沙也加も気になるけど、被害者いちばん多くだしてるのは、結衣か」

学年主任の坂下が立ち上がった。

「教員も巻き込まれているかもしれないんで、学年会でみんながもっている情報を整理しましょう」

イロハ高校の4月はいつも新入生にむけた教員たちの寸劇からはじまる。劇は3幕で構成されており、内容は例年、ほぼ同じである。1幕めは、教室内で